

## 審 議 経 過

No. 1

### 1. 開会

鴻上館長から挨拶

### 2. 委員紹介

### 3. 辞令書交付

委員を代表し、金氏委員へ鴻上館長から辞令書を交付

### 4. 会長・副会長選出

松尾委員を会長に、松永委員を副会長に選出

### 5. 議事

#### (1) 令和元年度 事業報告について

●事務局から説明後、質疑応答

(委員) 貸出冊数について、個人貸出と団体貸出の冊数を教えてください。

(副館長) 個人貸出が約30万点、団体貸出が約12万点。

(委員) 団体貸出が多いのがすばらしいが、個人の貸出が少ない。これが、課題である。市民一人あたり、6冊程度ではないかと思う。

(委員) 市民の関心をどうやって取り付けるかだろうが。図書館が苦勞されているのはわかる。

#### (2) 令和2年度運営方針及び事業計画について

●事務局から説明後、質疑応答

(委員) 3点質問したい。1点目に、資料の収集が図書館の根幹事業であると説明があったが、昨年度と今年度の予算について教えてほしい。それで、どれくらいの図書冊数の購入となるのかについてもお尋ねしたい。2点目に移動図書館についてお尋ねしたい。以前の巡回コースが69ステーションから74ステーションに変わっているが、内容を教えてほしい。3点目に、これまでの嘱託職員が全国で会計年度任用職員と変わっており、伊万里市民図書館は、特に司書を継続雇用している特徴があると思うがこの内容について教えてほしい。

(副館長) 資料収集事業については、昨年度の予算額は1,800万円であり、決算額は17,996千円でほぼ100パーセント消化している。購入した図書は8,833冊で、雑誌1,867冊、視聴覚資料171点と、合わせて10,376点の資料購入を行っている。毎年、約10,000点程度購入している。今年度は当初予算が1,000万、補正予算で追加する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響で追加予算が無しとなった。このため、選書会議も1週間に一度行っていたが、2週間に一度に変更している。つかなかった予算は新型コロナウイルス感染症対策に使われていると報告を受けている。

次に自動車図書館については、うちどくの推進やコミュニティセンターへの支援を行うべきと考えて、13センター中、8センターへ特に力を入れて回ることとした。また、老健施設への巡回も増やした。すでに波多津町には図書館からコミュニティセンターへ200冊の団体貸出を行った。どのようにして地域の拠点であるコミュニティセンターと一緒に「うちどく」を推進していくかを考えている。また、一方では働き方改革として、自動車図書館担当職員の負担が大きいため、1日あたりの従事時間を減らし、さらに2週間に一度の巡回を3週間に一度へと変更した。

会計年度任用職員については、基本は1年の任期だが、3年まで延長できることになっている。3年後に退職されたら空きがでるので、当人の希望により応募し直してもらうことになる。厳正な審査の結果、再度採用となった場合は、前歴換算を加え、待遇が少し良いところから働き始める。これまでの嘱託職員については、司書の資格を持っているため、初任・

中級・主任級は以前のまま継続し、専門職として高い給与の雇用となる。年間を通して、これまでの給与を保障し、またボーナス（賞与）も支給することになっている。

(委員) 運転手とベテランの司書がコミュニティセンターに行っているが滞在時間はどれくらいか。

(副館長) 1つのステーションで30分間停車しており、午前と午後で別々のコミュニティセンターに行っている。音読教室などを一緒にする事も計画できよう考えている。そうなれば、1時間程度の滞在も可能となる。

(委員) コミュニティセンターによって、本の管理が違っていると聞いているがどのようになっているのか。

(副館長) 元々コミュニティセンターに置いている本は、そこで管理している。図書館からの団体貸出については、何冊貸して何冊返却してもらっているか図書館で管理している。

(3) 今後の取り組みについて

●事務局から説明

6. 意見交換

●館長から説明後、意見交換

(館長) 当館ではここ数年、貸出冊数が減少・低迷を続けており、予算要求の際の不安要素ともなっていますが、この状況をどうご覧になりますか。

(委員) デジタルの媒体が出てきているので、やはり本を読む意識が薄れてきている。

(委員) 新刊を入れてほしいが、予算が少ないのであればどうしたらよいか。

(委員) 黒川コミュニティセンターも貸出冊数が減っている。日頃来てもらえない底辺の方にどうやって本に興味を持ってもらえるかの施策が大事。

(委員) 古川知事の時代の話になるが、日本一の貸出冊数になるにはどんどん貸せと言っていたが、貸せばよいと言うものではない。どんな本を借りているのか、データ分析をする必要がある。そういう形で本をそろえるのもよい。個人で買えない本があるのも図書館の良さではないか。

(委員) 自分の経験からだが、仕事が忙しくて、本を読まない。小学校・中学校で読書の経験をしていたら大人になっても読書の時間を作る。好きな作家を作る。伊万里にしかない本をアピールするのも大事。以前4人の作家のトークショーがあったが、とても有意義だった。人を呼ぶイベントも大事。

(委員) 読書の癖をつけるのは、学校教育が一番。朝、一定時間読書の時間を取る。また、本の貸出点が500冊以上や1,000冊以上になったら、〇〇賞をつけるなどをやってみる。

(委員) 令和元年度、一人あたり7.7冊(団体含む)の貸出冊数は少ない。伊万里市と同レベルの人口で上位10%の図書館を選んで、貸出率・資料購入費がいくら調べて参考にするとうい。長崎県(諫早市)多良見町では一人20冊借りている。これを叶えるのは図書資料費である。伊万里市は市民と協働で行ってきたので、根拠を出し合って考えていく必要がある。伊万里市は特に全国で屈指の図書館である。

(委員) 貸出冊数は減少しているが、色々な活動をしているので、図書館にお金をかけてほしいと言いつける事。

## 7. その他

### ●事務局から説明

第2回は3月頃を予定。

## 8. 閉会